



牛乳食育研究会
乳の学術連合



平成 26 年度「乳の学術連合」学術研究

「食と教育」 学術研究の公募

2013
12/31^火
申請締切日

「牛乳食育研究会」は、一般社団法人 J ミルクと共同して、豊かな食体験及び総合的な食知識の習得や食に対する健全な態度の育成及び適切な食選択能力の向上などの教育的な取り組みを推進するため、乳を活用した「食と教育」に関する学術研究を公募します。

応募資格

国内の大学及び短期大学、専修学校、国・地方公共団体の設置する研究所、独立行政法人の研究機関等で学術研究を行っている研究者等、またはこれに付随する研究を行っている個人の研究者等とします。

委託金額 年間一件当たり原則として100万円以内とします。

研究期間 原則として1年を超えないものとします。

選考方法

審査委員会が、各分野の専門家の意見を参考とし、審議決定します。

審査委員会

委員長 角屋 重樹 (日本体育大学児童スポーツ教育学部教授)
副委員長 田中 博之 (早稲田大学教職大学院 教授)
委員 児玉 浩子 (帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学 教授・学科長)
長島 美保子 (公益社団法人全国学校栄養士協議会 会長)
石井 雅幸 (大妻女子大学家政学部児童学科 准教授)
鈴木 由美子 (広島大学大学院教育学研究科 教授)

特定研究募集テーマ

- 1 「食に関わる教育活動」における「乳」活用の意義と可能性
- 2 「食に関わる教育活動」における教育効果とその測定法
- 3 集団給食（保育所・小中学校等）の教育的視点から見た歴史的役割や現代的意義
- 4 「乳」を取り込んだ食に関わる教育的視点を持った比較分析（国内外）
- 5 ライフステージ（特に、乳幼児、青年期、高齢期など）に対応した「乳」を取り込んだ食に関わる教育のプログラムと教材

一般研究募集テーマ

- 6 「乳」に関する教育的視点からの研究

上記への申請のうち 8 件程度を採用して研究者等を決定します。

※ここで言う「乳」とは、「食品としての牛乳・乳製品やそれを生産流通する産業としての酪農や乳業など」を指します。

詳しくは Web から学術研究実施要領をダウンロードしてください <http://www.j-milk.jp/>

一般社団法人 J ミルク内 「牛乳食育研究会」事務局

〒104-0045 東京都中央区築地 4 丁目 7 番 1 号 築地三井ビル 5 階 電話 03-6226-6352 FAX 03-6226-6354

URL : <http://www.j-milk.jp/> 担当：関芳和 E-mail : y-seki@j-milk.jp

平成 25 年 10 月吉日

研究者各位
研究機関各位

乳の学術連合
牛乳乳製品健康科学会議
代表幹事 折茂 肇
乳の社会文化ネットワーク
代表幹事 和仁 皓明
牛乳食育研究会
代表幹事 角屋 重樹
一般社団法人 J ミルク
会長 浅野 茂太郎

平成 26 年度「乳の学術連合」学術研究公募のご案内

謹啓 紅葉の季節、時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は、当研究会の事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度「乳の学術連合」では、牛乳乳製品の価値向上に繋がる多種多様な情報を広く社会に発信する為、“平成 26 年度「乳の学術連合」学術研究”として、一般社団法人 J ミルクと共同し、構成組織である「牛乳乳製品健康科学会議」「乳の社会文化ネットワーク」「牛乳食育研究会」それぞれの分野に係る学術研究を下記の通り、広く公募することとなりました。

つきましては、公募の趣旨および要領をご理解頂き、「乳の学術連合」学術研究公募への積極的なご参加ならびに関係者各位の御承引を戴きますようお願い申し上げます。

謹白

記

I. 平成 26 年度「乳の学術連合」学術研究

組織	分野	研究対象
牛乳乳製品健康科学会議	「牛乳乳製品健康科学」	牛乳乳製品の価値向上に繋がる医学・栄養学・食品科学・体育学等の分野の課題
乳の社会文化ネットワーク	「乳の社会文化」	乳の社会文化価値
牛乳食育研究会	「食に係る教育」	食に係る教育の新たな知見

II. 公募期間

平成 25 年 11 月 1 日（金）～平成 25 年 12 月 31 日（火）

III. 学術研究公募内容

各分野の公募内容については、別紙 1～3 をご参照ください。

Ⅲ. 「食と教育」学術研究の公募について（牛乳食育研究会）

「食に係る教育の新たな知見」に関する学術研究

1. 募集（申請）期間

平成 25 年 11 月 1 日（金）～平成 25 年 12 月 31 日（火）必着

2. 募集テーマ・内容

(1) 特定研究

No	テーマ
1	「食に関わる教育活動」における「乳」活用の意義と可能性
2	「食に関わる教育活動」における教育効果とその測定法
3	集団給食(保育所・小中学校等)の教育的視点から見た歴史的役割や現代的意義
4	「乳」を取り込んだ食に関わる教育的視点を持った比較分析(国内外)
5	ライフステージ(特に、乳幼児、青年期、高齢期など)に対応した「乳」を取り込んだ食に関わる教育のプログラムと教材

(2) 一般研究

No	テーマ
6	「乳」に関する教育的視点からの研究

上記うち 8 件程度を採用して研究者等を決定する。

※ここで言う「乳」とは、「食品としての牛乳・乳製品やそれを生産流通する産業としての酪農や乳業など」を指す。

3. 応募資格

国内の大学及び短期大学、専修学校、国・地方公共団体の設置する研究所、独立行政法人の研究機関等で学術研究を行っている研究者等、またはこれに付随する研究を行っている個人の研究者等とする。

4. 委託研究期間

原則として、1 年を超えないものとする。

5. 委託金額

年間 1 件当たり、原則として 1 0 0 万円以内とする。

6. 選考方法

審査委員会が、必要に応じて各分野の専門家の意見を参考とし、審議決定する。

<審査委員会>

委員長	角屋重樹(日本体育大学児童スポーツ教育学部 教授)
副委員長	田中博之(早稲田大学教職大学院 教授)

委員	児玉浩子(帝京平成大学健康メディカル学部健康栄養学 教授・学科長)
委員	長島美保子(公益社団法人全国学校栄養士協議会 会長)
委員	石井雅幸(大妻女子大学家政学部児童学科 准教授)
委員	鈴木由美子(広島大学大学院教育学研究科 教授)

7. その他

詳しい内容は、下記 Web より<学術研究実施要領>をダウンロードしてご確認下さい。

<一般社団法人 J ミルク ホームページ> <http://www.j-milk.jp/>

以上